

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 グローバル・総合分野 教授

氏名 渡辺徑子

研究期間 令和5年度～令和6年度

研究プロジェクトの名称	SDGs のリテラシーと確認指標の開発研究
研究プロジェクトの概要	本研究では、研究の柱立てを、地域連携、SDGs 関連科目の充実、学校支援プロジェクト、SDGs 子ども大学 in 上越、基礎調査とし、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals、以下 SDGs) の達成に向けての学校種別リテラシーと確認指標を、大学・小中学校・地域が協働で策定するというものであった。
研究成 果 の 概 要	<p>大学内では、学部には「SDGs と教育」という授業を新設し、大学院では SDGs 関連科目に、SDGs リテラシーとその確認指標を明確にし、授業後の振り返りに使用できるようにした。</p> <p>SDGs 子ども大学 in 上越では、令和5年には「環境」令和6年には「はたらきがい・やりがい」に焦点を当てて取り組んだ。この活動は現職の大学院生が中心になって計画・実施することで、大学院生が学校現場に戻った時に小・中学校での SDGs の実践を考える際の指針となった。実際に令和6年に中学校現場に復帰した教員からの SDGs の実践報告が本学のサテライト講座でされる運びとなった。また令和6年には大学院生と地域にあるうどん店が協働して「子どもがつくるうどん店」を展開した。年末をターゲットにしたイベントを目指して、夏から子どもたちがうどん作りの修行をしながら、新メニューを試作したり開発したり、イベントの盛り上げ方を考えたりしながら進めるものであった。大学と子どもとその保護者、地域が一体となった SDGs プロジェクトを創り出すことのできる可能性を見出すことができた。来年度以降も発展・継続していく。</p> <p>学校支援プロジェクトでは令和5年に上越市立板倉中学校において、総合的な学習の時間における食を中心とした SDGs プログラム作りの支援を行った。</p> <p>基礎調査としては、令和5年には三宅島を訪れ、離島の現状を観察するとともに現地の小中学校、役場からの聞き取りを行うことができた。令和6年にはデンマークの SDGs を推進している中学校を訪れ、現状を観察するとともに SDGs を授業として展開する際の知見を得ることができた。</p>
研究成 果 の 発 表 状 況 (※今後の予定も含む。)	令和7年2月23日(日)に教員養成・研修高度化センターにて、SDGs 子ども大学 in 上越の活動報告会を行った。これらの報告については来年度の本学紀要にまとめる予定である。また来年度に向けて今回の研究を基盤にした科研費の申請を行ったが残念な結果であった。
学校現場や授業への研究成果の還元について	大学内の授業も地域を舞台にした SDGs を体験的に学ぶことのできるプログラムとなるように検討を重ねる。また SDGs 子ども大学 in 上越に関わった現職教員が令和7年度に中学校現場に復帰する。ここで得た知見を中学校の授業として展開していくように支援していきたい。